9 月 3 日のメッセージ

聖書：コリントの信徒への手紙二　11：　7 – 15

「神がご存じです」

誰かが偉大なことを成し遂げると、必ずフォロワーが現れます。もちろん、それ自体は素晴らしいことでしょう。良いことがさらに拡散され、利益を受ける人がますます増えていくからです。しかし、フォロワーのように見せかけて、自己実現を図ろうとする者が一定数現れるのもまた確かなことです。彼らは、誰かのためではなく自分のために、似たようなことをして「誉められたい」のです。

パウロが異邦人伝道を成功させていると聞いて、やはりフォロワーが現れました。中には、正しく後に従う者もいたでしょうが、多くは「自分さえ良ければ」と考えた者たちでした(「こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。」コリントの信徒への手紙二 11:13)。しかも彼らは、自分たちが報酬を受けることを正当化するために、あろうことかパウロの所業を引き合いに出してさえいました。

だから、パウロは反論するのです(「それとも、あなたがたを高めるため、自分を低くして神の福音を無報酬で告げ知らせたからといって、わたしは罪を犯したことになるでしょうか。」コリントの信徒への手紙二 11:7)。そもそも、神の福音を宣べ伝えるのが目的であって、自己実現など二の次三の次ではないか、と。パウロは自分を誇ろうと思えばいくらでも誇ることがあるが、それを誇ろうとすること自体が愚かなことだと語ります(「わたしがこれから話すことは、主の御心に従ってではなく、愚か者のように誇れると確信して話すのです。」コリントの信徒への手紙二 11:17)。

イエスもそのような、自分を一角(ひとかど)の人物だと思うことを戒められています(「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。」ルカによる福音書 14:8-9)。

見られることを目的としてことを行うのではありません(「王の前でうぬぼれるな。身分の高い人々の場に立とうとするな。」箴言 25:6)。相手のことを思い、世界のことを思い、神のことを思って行動するのみです。見ている人は必ずその真摯な姿勢を見落とすことはありません。

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」(ルカによる福音書 14:11)

まして、信仰に関わる事柄で、誰かを利用して自分を高めようとする者を神は見逃されません(「主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。主は信仰ある人を守り／傲慢な者には厳しく報いられる。」詩編 31:24)。だからパウロは、安心してコリントの人々と向き合うことができました。

「神がご存じです。」(コリントの信徒への手紙二 11:11)

誰がなんと言おうとも、神は全てをご存じです。自ら誇る必要などありません。これまで通り一所懸命、神の福音を宣べ伝えるのみです。

そして、その姿勢を貫くことこそが、自分を貶めようとする者たちへの唯一の反論であることをパウロは知っています(「わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。」コリントの信徒への手紙二 11:12)。だからパウロは、常に強くあることができるのです(「雄々しくあれ、心を強くせよ／主を待ち望む人はすべて。」詩編 31:25)。

私たちはパウロのように強くない、と思うかもしれません。しかし、私たちの強いところも弱いところも、全て神はご存じです。できることもできないこともご存じです。その上で、私たちにできることを常に示してくださいます。

その神の思いに精一杯応えようとすることが何よりも大切です。その姿勢を神は喜んでくださるのですから。他の誰もが評価してくれなくてもよいのです。神からの誉れだけを胸に、前を向いていこうではありませんか。